
加護の中

白兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

加護の中

【著者名】

ZZマーク

ZZ684

【作者名】

白鬼

【あらすじ】

柵の中で生活している兄弟。変わらぬ日々。いつまでも一緒に。いられたらよかつた。

仲のよい兄弟がいました。
本当は妹もいたのですが、生まれてすぐに死んでしまいました。
だから兄弟はその分、お互いを大切に思うようになりました。

「今日も雨だ」

「ずっと雨だね。早く青空が見たいな」

4つの瞳は同じ方向を向いています。

空は灰色一色で、ひつきりなしに雨が降っています。

「お兄ちゃん」

「ん? どうした?」

弟はなにやらもじもじしています。

「えっと……ね」

今度はうつうつし始めました。

「あのね……」

「……なんだよ」

兄は苦笑いを浮かべながら、弟を自分の方へ向かせました。

「はい、なんでしょうか?」

「外の世界へ行きたいね」

「……そうだね」

「いつになるかな？早い方がいいなあ」

弟は毎日飽きずに同じことを言っています。

兄は何も言わず、空を見つめました。

視界に入つたのは、

空と、

弟と、

彼らを囲む鉄柵でした。

明ぐる日、弟は早く起きました。兄はまだ寝ています。

「ううからぬけ出したら、何が待つているんだうう」

辺りを見回しながら、脱出できそうな箇所を探しました。
ですが、結果はいつもと同じ。
為す術がありませんでした。

弟は諦め、兄が起きるまで、また眠りにつきました。

それから数十分後、

「開いた・・・」

物音で兄が目を覚ました。

この場に来てから柵の扉が開くことはありませんでした。
外の世界の者は食べ物や飲み物を与えてはくれますが、
決して彼らを外へ出そうとしたことはありません。

「起きろー早くー」

弟は何事かと驚き、兄の方を見ました。

兄の先には開いた扉。

「あ・・・」、これって

「外へ飛び出せるんだ！・・・やつとー。」

兄は興奮気味です。

「ほほほ本当にー。」

弟の動搖も負けていません。

「ずっとこの時を待つ

」

弟の言葉は最後まで聞く」とは出来ませんでした。

「な・・・」

兄は呆然と見つめました。

有無を言わさず連れていかれた弟を。

兄が現状を認識できたのは、しばらくしてからのことでした。

「妹だけでなく、弟までも・・・」

彼は怒りよりも悲しみの方が強く、ただただうなだれるしかありませんでした。

昨日、弟が言っていた言葉を思い出しました。

外の世界へ行きたいね

「ああ、そうだ。でも・・・2人一緒にでなければ意味がない！」

兄は格子を蹴りました。力を込めて蹴りました。

その次は体当たりをしました。

結果は身体を痛めただけで、壊すことはできませんでした。

「ああああああーー！」

彼は発狂し、

「独りで何が楽しいんだ！」

糸が切れたように倒れました。

次の日、外の世界の者が柵の前にやってきました。
その手には、兄のための食料があります。

柵を覗き込むと、倒れていることに気づきました。
驚いた彼女は慌てて叫びました。

「ママー、見てー！小鳥さんが動かなくなっちゃったー！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9684/>

加護の中

2011年10月4日08時20分発行